

報道関係者各位

2022年4月22日

## 男女 500 人に「生命保険」に関する調査を実施

ファイナンシャルプランナー(FP)の無料紹介サービスを提供する保険マンモス株式会社（本社:東京都港区、代表取締役:古川徹）はこの度、男女 500 人を対象に「生命保険に関するアンケート調査」を実施。結果を発表いたします。

生命保険は一度加入するとあまり見直す機会がなく、そのまま同じ保険に加入し続ける人が多いのが現状です。

しかし本当にそれで良いのか、そもそも生命保険に加入する必要があるのでしょうか？生命保険のリアルから、見直しの必要性について解説します。

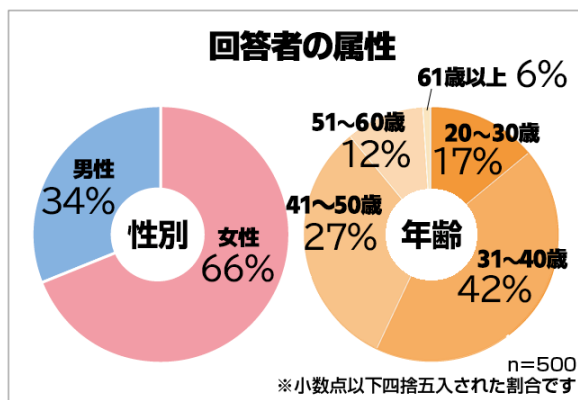
### ● 生命保険の現状

公益財団法人・生命保険文化センターの調査（令和3年度）によると、生命保険の世帯加入率は 89.8%、医療保険の加入率は 93.6%と、前年度とほぼ同じ割合となっています。

世帯年間払込保険料は 37.1 万円（平均）で、ひと月あたりの保険料はおよそ 3 万円です。

### ● 必要な保険はライフスタイルによって違う

「生命保険加入者のアンケート（自社調べ）」によりますと、年代別の加入状況は以下のようになっています。



働き盛りで結婚、出産などライフイベントも多くなる 30 代がもっとも加入割合が多くなっています。

毎月の保険料の支払額は以下の通り。

毎月の保険料 支払い額			
	最低	最高	平均
20～30歳	980円	32,000円	8,522円
31～40歳	980円	74,000円	10,199円
41～50歳	500円	110,000円	11,974円
51～60歳	500円	50,000円	10,797円
61歳以上	2,000円	35,000円	14,644円

同アンケートでは平均額は1万円代が多くなったものの、最低額と最高額の差が非常に大きい結果がみられました。

生命保険の種類		
ランキング	回答	人数
1位	医療保険・疾病保険	323
2位	死亡保険	137
3位	死亡保障付の生存保険	30
4位	介護保険	10

n=500

加入している保険の種類は圧倒的に医療保険・疾病保険が多く、全体の65%を占めています。

次いで多いのは死亡保険で27%、介護保険は2%しかありませんでした。

扶養している配偶者や子供がいる場合には、自分にもしものことがあった時のために死亡保障が必要になるでしょう。

現在独身の人は家族の生活費については考えなくて良いため、自分の怪我や病気について考えればよいのですが、医療保険がそもそも必要なのか？という議論もあります。

日本には高額療養費制度がありますので、たとえ大きな病気や怪我で入院し100万円の医療費がかかったとしても、3割負担の30万円を支払うことはありません。

年齢や収入によって負担額は違うものの、年収が770万円以下ならひと月およそ8万円程度で済むようになっています。

ある程度の貯金があれば、賄える金額です。生命保険＝社会人になったら加入するもの、と思っている人も多いかもしれませんが、しかし、本当に今の自分に必要なのか？加入する前によく検討する必要があります。



● **調査概要**

調査対象：主に民間の保険会社が取り扱っていて任意加入できる「生命保険」に加入している方

調査日：2022年3月3日～2022年3月4日

調査方法：インターネットによる選択・記述式回答

調査人数：500人（女性332人／男性168人）

● **保険マンモスの事業内容**

保険マンモスは、無料でお金の専門家であるFP（ファイナンシャルプランナー）を紹介するサービスを提供しています。お客様に合わせてマッチングしたFPが、ご希望の場所にて、専門知識に基づいた保険選びのアドバイスや家計の将来設計を支援します。

お金の悩みを解決できる金融情報メディア「[マンモスとお金を学ぶ](#)」等、各種情報発信ウェブサイトも運営しています。

【会社概要】

保険マンモス株式会社（設立：2005年8月／資本金：3,580万円／代表取締役：古川徹）

東京都港区港南 2-16-2 太陽生命品川ビル 18 階

<https://hoken-mammoth.com/corp/>

<プレスリリースについてのお問い合わせ>

保険マンモス株式会社 マーケティンググループ

TEL：03-5769-7253 / Mail：mktg@hoken-mammoth.jp